



福井市自然史博物館

博物館だより

FUKUI CITY MUSEUM OF NATURAL HISTORY NEWSLETTER



カワヨシノボリ



クロヨシノボリ



オオヨシノボリ



ムリヨシノボリ



トヨシノボリ



シマヨシノボリ

写真：松田隆吉

福井の自然史情報

福井県のヨシノボリ

長い間1種類とされてきた淡水魚「ヨシノボリ」は、分類研究が進んだことで1989年に別種とみなされるようになり、福井県でも再調査の結果6種生息することがわかりました。これまで、県内に広く分布し一般的な魚だと思われていた「ヨシノボリ」も、いくつかの種では生息している河川に限られており、貴重であることがわかってきたのです。



中面に淡水魚について解説があります。

足羽山のサクラ

(種族された観賞種を含む)

博物館のある「足羽山」といえば、春の「サクラ」を思い浮かべる方が多いと思います。

それ以外にも様々なサクラのなかま（サクラ属の植物）が代表的ですが、

それ以外にも様々なサクラのなかま（サクラ属の植物）が代表的ですが、

今年はこちらと違ったサクラも探してみませんか？

花期は足羽山での観花時期を示しています。

又、足羽山で見られるサクラについての見分け方です。

樹状

がく瓣の形状

枝葉がつぼ状に丸くふくらむ

したれない

枝の形状

花びらの重なり

一重 (5枚)

したれる

花影がつぼ状に丸くふくらむ

ない

花が咲く
時期の
葉の有無

花期(開花)が
ソメイヨシノ
と比べて

遅め

同じか
やや遅め



キンキマメサクラ
花期: 3月7日

がく裂片の裏面の有無



イエベニシダレ
花期: 4月上旬

ある

ない



ソメイヨシノ
花期: 3月下旬~4月上旬



エドヒガン
花期: 3月下旬~4月上旬



オオシマサクラ
花期: 4月中旬

花柄の毛の有無



カスミサクラ
花期: 4月中旬



ヤマサクラ
花期: 4月上旬~中旬

ある

ない

開花



葉裏面...へりのギザギザ

これらの他に、
サトサクラ
(びよんサクラの裏面葉脈の断片)
ウスギヤマサクラ
(ヤマサクラのものもある品種、花期: 4月上旬)
チヨウロウヤマサクラ
(ウスギサクラの毛が多い品種、花期: 4月中旬)
なども見られます。

素晴らしい水中の世界

松田 隆喜 (福井県立福井農林高等学校教諭)

膝丈くらいしかない川の中。水中メガネをつけてのぞいてみる。一見早瀬に見える川でも、岩や藻、水草のおかげで水の流れに強弱が生まれ意外に複雑であることに気付く。たった50cmほどの水深であっても、そこには上から眺めていた時とは全く別の世界が広がる。そんな川の中にうつつ伏せになりじっと息を潜めていると、初めは警戒してこちらをうかがっていた魚たちが、次第にいろいろなところから顔を出してくれる。たも網で採集できなかったからといって、そこに隠れないわけではない。複雑に作られた隠れ家に潜んでいるものたちがいるのだ。

石に付いた藻を一心不乱にはむ一匹のアユ。我がもの顔で陣取り、他の魚が縄張りに入ってこようものなら容赦なしに追いかけ回す。その傍らで縄張りを持ってなかったアユたちが群れる。そんな群れアユたちの不遇に思わず同情する。隠れているつもりなのか、じっとして微動だにしないドンコやカマキリ[写真1]。絶えず忙しく口を動かし川底のエサをむさぼるアジメドジョウ[写真2]。ふと気が付くと、コイが悠然と目の前を横切っていく。初夏

にはカワヨシノボリの雄同士が口を大きく開け威嚇行動をしている場面に出くわすことがある[写真3]。水流に逆らいながら立てたその背鰭に涼々しささえ感じる。向こうからはオオクチバスがやってくる。水中に横たわるおかしな生き物に興味があるのだろうか、なかなか逃げない。それをいいことにこちらから近づいてみる。しかし、この世界では通用しない。一変、ものすごい勢いで威嚇してくる。そう、この世界では私は侵入者なのだ。学校の授業でも耳にしただろう、魚には流れに逆らって泳ぐ性質と周囲の視覚情報によって流れの中で一定の位置を保とうとする性質がある。この性質が顕著に見られるのがヤマメである[写真4]。機敏な魚であるのに、その場にずっととどまっているため実は室外観察しやすい。水深50cmの世界、私はこうして至福の時を過ごす。

この感動を記録として残したいと思うようになり、6年ほど前から水中でカメラを構えるようになった。デジタルカメラや防水ハウジングなどの道具が進化してくれたおかげで、私のような素人にも水中写真が撮れるといういい時代である。まだまだ思うような写真を撮ることはできないが、この素晴らしい世界をこれからも残していきたいと思っている。



[写真1] 微動だにしないカマキリ



[写真2] 川底のエサをむさぼるアジメドジョウ



[写真3] カワヨシノボリの威嚇行動



[写真4] 定位置を保つヤマメ

今夏の特別賞は「福井の淡水魚」です。お楽しみに!



新種の化石 「ハッタスナモグリ」(*Neocallichirus hattai*)



(スケールは1マス1cm)

2009年2月から5月にかけて、福井市国見町で友の会運営委員の八田真毅さんが「カニのような」化石を複数個発見しました。これらの化石が、2010年2月17日、新沢宏明氏(福井市化石博物館)と中川登美雄氏(福井県立丸岡高等学校)により新種の化石として発表されました(福井市化石博物館研究報告第36号)。約1600~1650万年前(新生代新第三紀)に生きていたスナモグリ(甲殻類-エビ・カニのなかま)の化石で、学名は発見者の八田さんの名前にちなんで付けられています。福井市自然史博物館で、2010年5月23日(日)まで展示し、一般公開しています。

福井市自然史博物館
第69回特別展

足羽山を彩るギフチョウと春の昆虫

2010年3月20日(土)～5月23日(日)

「春の妖精」と呼ばれ、早春の話題となるギフチョウ。足羽山でもその可憐な姿を見ることができ、周囲を市街地に囲まれた低山で見られる例は全国的に珍しいといえます。今回の展示では、ギフチョウをはじめとして、早春から初夏にかけて足羽山に姿を現す昆虫の営みを、季節を遡って実物標本で紹介します。

厳しい冬を乗り越えて

春から秋にいた昆虫たちは、冬になるとどこへいってしまうのでしょうか。昆虫は私たち人間のように体温を一定に保てないから、冬の寒さの中で体温が下がりますと、命の危険にさらされてしまいます。加えて冬は餌が少ないため、多くの昆虫は活動をやめ、深い眠りについて冬をやり過ごします。また、昆虫はそれぞれの種が決まった发育ステージで冬を越し、繁殖期に配偶者に巡り会いやすいように发育の足並みを揃えています。朽ち木や落ち葉の下でひっそりと寒さに耐えるスズメバチの女王やクワガタ、背中にハート模様をもつカメムシなど、意外と私たちの身近な場所でも冬を越す昆虫たちの姿を生体写真と標本で紹介します。



エサキモンキツノカメムシの雌を



クロスズメバチ女王の雌を

自然の隠し絵

昆虫たちはかくれんぼの名人です。草や木など自分の周りの自然にうまく溶け込んで、外敵から身を守る昆虫がたくさんいます。ゴマダラチョウの幼虫は、餌となるエノキの葉が緑色のうちは緑色の体をしていますが、冬になってエノキの葉が落ちる頃、それにあわせて体の色を褐色にするという念の入れようです。かくれんぼの鬼になったつもりで、展示会場で昆虫たちを探してみてください。



ゴマダラチョウ幼虫

どこに隠れているか
分かるかな?



春を彩る昆虫と花

春の妖精ギフチョウは、サクラ、カタクリなどの花と並んで、早春の足羽山を美しく彩ります。ギフチョウの成虫は、春のわずかな期間にだけ姿を現し、足羽山では通常5月初めまでには交尾・産卵を済ませて姿を消してしまいます。自分の子孫を残すため、メスのお腹にフタをして二度と交尾できないようにしてしまうオス。前脚の光の毛で味を感じて、食草となるカンアオイであることを確認してから卵を産むメスなど、ギフチョウの成虫の生態には驚きがたくさんあります。



ギフチョウ

また、今回は特別に「日本各地のギフチョウ」、「珍しい模様を持つギフチョウ」、「世界のギフチョウ類」も大集合しています。美しく驚異に満ちたチョウの世界にひたってみませんか。



シボリアゲハ(世界のギフチョウ類)

そして季節はまた巡る

初夏はミツバチの巣分かれの季節です。新しい女王が誕生する頃、母親の女王が巣内の働きバチの約半数を引き連れて巣を出ていきます。六角形の部屋が整然と並んだ巣の中では、産卵に専念する「女王バチ」と、それ以外の仕事を「働きバチ」に分かれています。さらに、働きバチは成虫になってからの日数によって「巣の掃除」、「幼虫への餌やり」、「餌となる花粉・蜜集め」などと仕事を覚えていきます。私たちが普段花の側で見かけるミツバチは年を取ったミツバチで、その後脚には花粉を運ぶためのよくできたしゅみがあります。このしゅみを、30倍の拡大模型で見てみませんか。



セイヨウミツバチの巣のなか 女王バチ

【あとがき】

特別展準備のお手伝いをする中で、昆虫についてじっくり知る機会をもらいました。小さいけれど、驚異の世界をもっている昆虫たち。ぜひ関連行事やミュージアムトークで梅村学芸員を促して話を聞いてみてください。身近な昆虫でもおもしろネタが満載です。また、今回のリレーエッセイを読んで、見たこともないひっそりとした水中の世界が目の前に浮かんできたのは私だけではないはず！自然と向き合う幸福感だとう文章に、私も水中でじっとしてみたい気分になりました。(安替)

【交通案内】

- 【電車】 福井鉄道越前線 公園口駅 徒歩約20分
- 【バス】 コミュニティバスまいる：西ルート(足羽・榎手方面) 愛宕南バス停 徒歩約10分 京福バス(入道駅公園線(70号系統)久保駅バス停) 徒歩約15分
- 【徒歩】 片塚井から徒歩約30分

【ご利用案内】

- 開館時間 午前9時～午後5時15分(入館は午後4時45分まで)
- 休 日 月曜日(祝日は開館)、国民の祝日の翌日、年末年始
- 入 料 料 高校生以上100円(20名以上の団体は半額) ※小学生以下、70歳以上、障害者および付添いの方は無料

